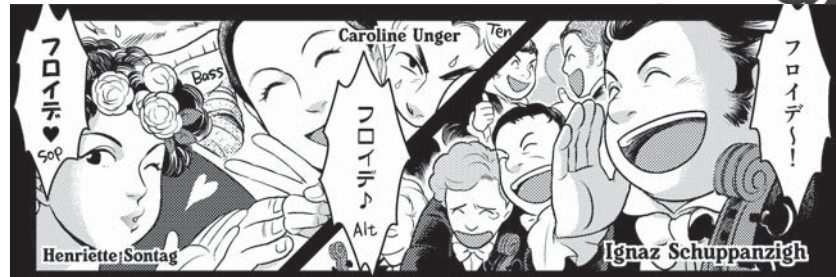


第2弾! 号外 猛獣再来 ボンスポ



↑ライバル・ゲリネク氏が倒して上機嫌の往年のベートーヴェン氏

1824年5月7日、ウィーン・ケルトナー劇場にて、ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(53)の新作「交響曲第九番」が初演。万雷のブラヴォーとフロイデの歓声の中、警察が度重なるアンコールを阻止し、現場は騒然。音楽史に残るスキャンダラスなシーンとなった。ベートーヴェンは1770年ボン生。20代よりウィーンに在住。貴族宅でのピアノ、バトルにて、その晩前と往年のキレ芸「ギロチンチョップ」でライバルをこごとく倒



「実は彼がこの交響曲を書ききつかけを与えたのは僕でして」と驚くべきストーリーを小紙に明かしたのは、ボン出身の愛弟子フェルディナント・リース(39)。なんと、この前

「衝撃スクープ!」
「第九のきっかけは僕でした」
愛弟子氏、師匠の仰天エピソードを大暴露!?

「なにせシラーといえは、ポンの連中にとつての青春の詩人ですから。もし再演があるとしたら、当然、愛弟子の僕としても一役買いたいですね。我が地元にもフロイデの絶唱がとてつと可能性アリか?」

代未聞の「合唱付き」交響曲は、彼が旧師のためにフランニングした英国招聘計画に基づいて構想され、本来はロンドンで初演されるはずであったという。「しかし残念ながらそれは大人の事情で...」(以下検閲により削除。それ以下でも、あの保守的なウィーンで暴れてのけるとは、さすがはかつて猛獣と呼ばれた先生です。コンサートマスターにあの悪友シュパントウィヒ氏が務めたというのも何やら「運命的ですね」と苦笑。とはいえ、この交響曲に対しては、同郷人、そして二十年來のおしどり師弟(?!?)ゆえの未練がありそうな様子。

ベートーヴェン、衝撃のギャグ4コマ漫画化!! 公式サウンドトラックも同時リリース!!

まずは1曲 Amazon MP3で無料ダウンロード! 期間限定!(2015年1月末日まで)

Amazonのアカウント+スマートフォンで今すぐDL!

ズンドコマーチで検索

「運命と叫ばないで」
「ズンドコマーチ頂上決戦」
全50トラック
アルバム価格1,000円(税込)
Amazon MP3 iTunes Store 配信

←猛獣ベートーヴェンの音楽活動やプライベートの暴露情報多数収録されている大好評4コマ漫画「運命と叫ばないで」(通称:運よば)

第九の陰の仕掛人? 愛弟子リリース↓

「運命と叫ばないで」特設ページ http://naxos.jp/special/no_unmei

今月のあかね先生 リズム・セミナー(発展編)に行ってきました!

こんにちは!今回は担当者(ゆ)が、あかね先生のリズムのセミナー・発展編をレポートいたします。今回は「リズム」のセミナー・導入編の続きとして、あかね先生にリズムを身につけるためのレッスンのポイントをたくさん伝授していただきました。

1つ目のポイントは、リズムを流れて理解するために「くさの字」を使って説明すること。実はこの「くさの字」、とってもスグレモノなのです!くさの字とは、1拍をV、2拍をW、1/2拍を\または/で表したもので、「くさの字を書く」=「リズムを書く」ということとなります。書くためには頭の中で音価やリズムを理解する必要がありますので、より深く身につけることができますね。付点や16分音符などの複雑なリズムをくさの字で表す作業は、まるでリズムという謎を解いているかのような、そんな感覚になりました♪

もう一つのポイントは、 $\frac{6}{8}$ ・ $\frac{3}{8}$ を教えるときの拍子うちのやり方です。

右手でリズムをたたき、左手で拍を刻みますが、その1拍目と4拍目を「パー」で、それ以外の拍を「ゲー」で刻みます。強拍を意識した打ち方をする事によって、ゆっくりのテンポでも3拍のかたまりを意識した拍子うちができます。はじめは大混乱だった(ゆ)でしたが、以前あかね先生からいただいた「大きな声で元気に!」というアドバイスを思い出し、声をだして頑張りました。

ほかにも、あかね先生はたくさんのリズム指導のポイントを教えてくださいました。今回も充実した、とっても楽しいセミナーでした♪(ゆ)

今月のセミナースケジュール
1/20(火):[東京都/多摩] スガナミュージックサロン多摩『導入期からは始める楽しいピアノ/レッスン~初歩のテクニックにつなげる~』
1/29(木):[鳥取県/鳥取] アコヤ楽器店『ピアノ/テクニックのレッスン法~初歩からすてきな音をならしましょう~』

Lento 大人のレッスン Lesson.5

黒田篤志 くらだ・あつし
1973年生まれ。早稲田大学修士課程修了。日本アマチュアピアノコンクール7位入賞。出版社にて楽譜と書籍の編集を担当。現在小山市で、大人のピアノ教室「Lento レント」を主宰するかたわら、フリーの編集者、ピアニストとして活動中。
<http://ameblo.jp/pianote0519/>

曲を仕上げるにあたり、全体像をおおまかに把握し、3大要素によるアナリーゼ的な整理を終えたら、いよいよピアノを弾く番です。しかし、やみくもに弾きはじめるのはよくありません。はじめは単音から弾いてもらいましょう。まとまったフレーズではなく、一音一音を確かめながら弾いてもらいます。そのとき、それぞれの鍵盤を弾くときの、もっとも充実したカラダの感覚を意識してもらおうことが大切です。

たとえば右手で中央の「C」を弾く場合、指は1~5が使えますから、5通りの指づかいがあります。これは、同じ音を弾く場合でも、使う指によってカラダの感覚は異なるということです。このことを踏まえて、取り組んでいる曲の指づかいにしたがって鍵盤に触れつつ、丹念に充実したカラダの感覚を探ってもらいます。

鍵盤に触れるのは、なるべく指先の中心がよいでしょう。そのひらは内側に向いていく傾向が強く、右手の場合、指先の右側が鍵盤に触れがちです。とくに4と5の指はその傾向が強いと思われる。少しのひらを外側に向けるようにするとよいかもかもしれません。

鍵盤のどの部分に触れるかも大切です。「CDEFG」を右手の1~5の指で弾くことを例に考えると、1より2の指、2より3の指が、鍵盤の奥の方に触れることとなります。そして3より4の指、4より5の指の方が、手前になるでしょう。和音の場合でも「CとG」を1と5の指で弾く場合、5の指は鍵盤の奥の方に触れ、1の指は鍵盤の手前に触れた方が手は安定しますから、単音でそれぞれの位置で「C」と「G」を弾いてみて、そのあとに「CとG」を同時に弾き、もっとも安定する位置を探ります。

大切なことは、鍵盤にとらわれないこと。カラダがラクになれる手の形を優先するべきです。鍵盤に手の形を合わせるのではなく、カラダがラクになれる手の形を維持しながら、鍵盤の奥行き、白鍵と黒鍵の段差などを考慮して、触る位置を決めていきます。手首と肘はなるべく柔らかい方がよいため、あたかも潤滑油に満たされているような感覚を大切にもらうとよいのではないのでしょうか。

曲がなかなか仕上がらない原因のひとつに、ピアノと指先のコンタクトの悪さが挙げられると思います。ここがしっかりしていないと、カラダが不安定な感覚に満たされ、ココロも不安になってきます。音のつらなりによって指や手の使い方も変わってきますが、とりえず、単音とその鍵盤を弾く指のよいコンタクトをしっかりカラダに入れ込んで、そのつぎに少し長いパッセージを弾くときのカラダの使い方を探っていくことが、曲を仕上げる近道です。

黒田篤志

つむりの練習手帳

昨日、レッスンから帰って家で「先生にも言われてたけど、どうしてつむりは“音の長さのおやくそく”守れないの?」ってママにいやな事をむし返されてぶーっ!ってふくれてみせたつむり。「わかってるもん」「でも、なおってないでしょ?」「だから、わかってるもん」「でも...」ってずっとやりとりがどうどうめぐりで二人ともヘン。(トホホお兄)

つむり現在の楽譜
☆ハノン・ピアノ教本
☆プレ・インベンジョン
☆びあのどリーむ
ブルグミュラー 25の練習曲
☆ル・クーペ
ピアノのアルファベット (ABC)

編集部チョイスおすすめの1曲
ゆきのダンス (轟千尋作曲)
レベル:☆☆☆☆

わーい! わーい! ゆきが ふったよ!
たくさん あそべて たのしいな。
「ソ」の音だけを使った曲です。

掲載楽譜
ちいさなおんがくかい 1